

2024:甲良町商工会女性部活動報告

持続・継続可能な取り組みを・・・

「地域の誇りを確認・発信プロジェクト」

無形の歴史的資源を次世代へ語り継いでいきたい、わが町自慢を
発信してほしいという想いが形になった「絵本」

今年は今屋地区の千草盆が題材。五穀豊穰・子孫繁栄 人々の思いを込め
て奉納される「ヤッサ」のお話。

おばあちゃんの目を通しての時間の流れ 雄大さの表現 本物に近い色
彩等 かなりの手間がかかりましたが、いい作品に仕上がりました。一番大
事な伝承 承継 「託す思い」を感じていただけたら幸いです。





誰かが訪ねてきたときに、誰かに問い合わせられたとき
 あなたは自分の住んでいるところのお話ができますか？
 『まち自慢』ができますか？
 あたりまえの中に、他の人からみれば光輝くこともあります。
 これぞまさに「観 光」

私が暮らすまちにはね…… と住まう誰もが語れること

まちのステキを知って話せるように絵本作りは続きます……

平成 29年	お池の龍神様になったおはなのはなし	(北落区)
30年	湖東平野の守り神 牛頭天皇	(小川原区)
令和 1年	宗廣と甲良大工	(法養寺)
2年	おたけさん	(下之郷)
3年	みんなのおだやかな明日のために	(呉竹区)
4年	西が丘の弘法さん	(長寺区)
5年	バサラ大名 道誉さん	(正楽寺区)
6年	ヤッサの里 金屋	(金屋区)

おかげさまで女性部員は、これだけ地域自慢ができます。



黄金の輝きに見えます！



絵本は心境的には特産品、甲良そのもの・・・とっておりますが、正直同じものがリピートして購入いただけることはほぼなく、お土産品として大量に購入を希望するのは無理。

そもそも商品としての特産品開発は平成26年以降行っておらず、今年こそはとコロナ前から計画していたお菓子作りを実行。

みんなで試行錯誤を繰り返し、ビジネ初コメニティ補助金を使わせていただき講師をお招きして学習しました。結果 毎年 果汁採取して大量に廃棄となるゆずの皮と種、その成分を活かして様々な食品加工に使える原液を製造。

女性部の特産品としてそれをういたお菓子の商品化を目指しました。実習・検討を重ね、開発が軌道に乗り始めた頃には季節は移り、ほぼ仕上がるかと思いきや肝心のゆずがなく、まだかまだかと待ち望むこと約5か月、収穫の知らせをいただき作業開始。待ちに待ってやっと作ったシロップ。早速更なる成分検査とお菓子にするために発送しました。



廃棄される皮や種
これはほんの一部です



かわいい亀の形 甲良で甲羅

ゆずの色なんですが、苦勞した

私たちには金色に見えます！

グミは半生製品ということで
品質管理や衛生面を考慮して専門業
者に製造を依頼
ゆずの原液を送ります。
商品となって帰ってくるまでの数週
間がとても 待ち遠しいです。



このゆずのシロップ
高齢化 少人数の部会では更なる商品
開発は難しいですが、商品に使ってもら
うべく売り込みに精を出します。
我々がシロップづくりに用いたことで
廃棄ごみが1/4減少しました。
夢は大きく、シロップがいろんな製品の
原料に用いられるようになったら
もっともっと種や皮を消化出来たら・・・

使ってやろうと言われる方があれば、大歓迎です。

お声かけお待ちしております。

もちろん グミのお買い上げもよろしくです。

人口減少や高齢化、過疎化がすすむ町ですが、
それゆえ地域に愛着と誇りをもって

まず自分たちが地域を知り、その良さを語り、伝え 発信する
地域のふれあいを大切にし、持続的な活性化を心掛けることで
いってみたい・住んでみたいと思ってもらえるようなまちづくりを
災害が起きてもだれひとり取り残さないようなネットワークなど
、微力ながら町ぐるみの取組の一環を担えたらと活動をしていきます。